



# 薬局だより

2016年第6号



ケーアイ調剤薬局 2016年6月1日発行

## 小さいお子さんへの粉薬の飲ませ方



お子さんの薬をお渡しする際によく相談されるのが、薬を嫌がる、吐き出してしまふ等、飲ませないといけないのは分かっているけど、どうやっても飲ませられないという悩みです。特に粉薬を飲ませるのに苦労している親御さんは多いようです。嫌がるお子さんに薬を飲ませるのは本当に大変なことです、色々な飲ませ方を試してみて、お子さんに合う方法を探してみてください。月齢や年齢によっても飲ませ方が変わってくるので、参考にさせていただけたらと思います。

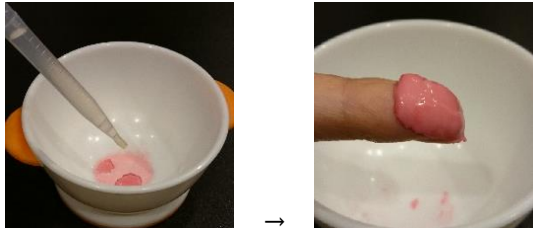
### <生後0～6ヶ月くらい>

#### 飲ませるタイミング

- ・授乳前の空腹時に飲ませる
- ・オモチャや音楽、テレビ等で気をひいている間に、そっと口に薬を入れてしまふ

#### ペーストにする方法

薬に数滴の水を加えて練ります。できるだけ水の量を最小限にすることが大切です。水が多いと指で取りにくくなる上、一度で飲みきれなくなるため薬を嫌がる場合があります。スポイトを使って1滴ずつ加えながら、硬さを確認すると良いでしょう。歯みがき粉くらいの硬さを目安です。これを指先に取り、赤ちゃんの上あごやほおの内側に擦り付けましょう。その後に水や白湯、ミルクなどを飲ませてお薬を流し込んで下さい。



### スポイトで飲ませる方法

薬を5～10mL程度(小さじ1～2杯程度)の水や白湯に溶かしてサラサラの状態にします。溶かした薬をスポイトで吸い、赤ちゃんの頬の内側に少しずつ流し込みます。のどに直接入れようとする、むせて吐き出してしまふことがあるので、頬の方から少しずつ流し込むことがポイントです。

### 哺乳瓶の乳首を使って飲ませる方法

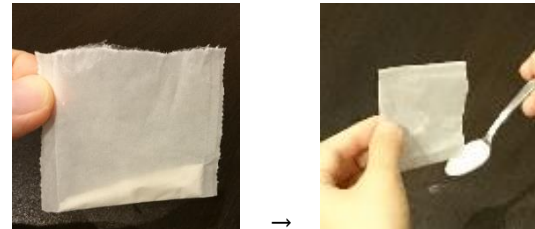
薬を5～10mL程度(小さじ1～2杯程度)の水や白湯に溶かしてサラサラの状態にします。哺乳瓶の乳首の部分赤ちゃんにくわえさせます。その乳首に、溶かした薬を少しずつ流し込んで飲ませます。

注意) いつもミルクを飲む時に使っている乳首を使ってしまうと、ミルクを飲むときにも警戒してミルクを飲まなくなってしまうことがあるため、できれば薬専用で使う乳首を用意して頂くことをおすすめします。



### <生後7ヶ月くらい～>

離乳食に慣れてくると、スプーンで飲ませることができるようになります。  
・薬を小さい皿に移し、少量の水に溶かしたものをスプーンで飲ませます。粉薬の袋は湿気を避けるために耐水性のあるものが多いので、袋の中で薬を溶かす方法もあります。薬の袋を破り、袋の中へスプーン1杯弱の水を入れます。袋の中で混ぜて溶かします。それをスプーンへ移して飲ませます。



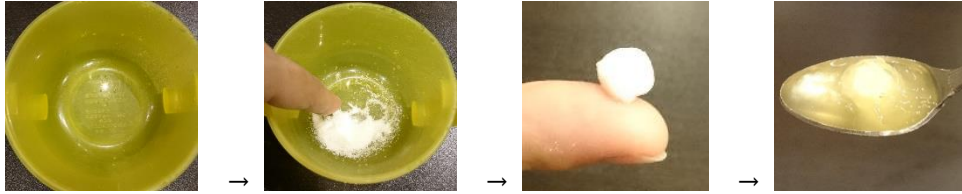
### <1歳～>

1歳を過ぎて、大人と同じものを食べられるようになると、色々な食べ物に混ぜて薬を飲ませることもできます。薬においや味をごまかすために、味や香りが強いものに混ぜた方が飲ませやすいです。どの混ぜ方でも、薬を飲んだ後に何か飲み物を飲ませて、口に薬が残らないようにしましょう。

## ゼリー

スプーンにゼリーをとり、その上に薬を置き、その上にさらにゼリーを重ねて食べさせます。成長して薬の量が多くなってくると、粉のままゼリーで包むことが難しくなるため、**薬を団子状にしてから包む**と良いです。

(お薬団子の作り方) 先に薬を皿に入れて水を加えると、水が多くなりがちです。まず何も入っていないお皿に水を入れて捨てます。そこに粉薬を入れ、皿に付いた少量の水で薬をまとめ、転がして団子状にします。



## アイスクリーム

冷たいアイスクリームに混ぜると、味覚が麻痺して薬の味を感じにくくなります。アイス1~2口分くらいに薬を混ぜます。**最初の2~3口は混ぜてないアイスを食べさせ、その後に薬を混ぜたアイスを食べさせると**上手くいくことが多いです。薬を混ぜたアイスを食べた後は、すぐに混ぜてないアイスをまた食べさせて下さい。バニラよりも、チョコ味の方が苦味を感じにくいようです。

## ジャムやピーナツクリーム、ハチミツ、練乳

上記の物に混ぜて食べさせます。甘いものが好きなお子さんは、特に甘味が強練乳を好んで食べるようです。

混ぜたものを**パンやビスケット等に挟んで食べさせると、より薬の味が分かりづら**くなります。ただしベビーせんべいに挟むと、薬を塗った面がすぐ軟らかくなってしまいますので、逆に食べさせにくくなるかもしれません。

イチゴジャムのように酸味のあるジャムは、薬の種類(特に抗生物質)によっては逆に苦くなることがあるので、薬剤師に相談して下さい。

(注意: **1歳未満のお子さんには絶対にハチミツは与えないでください。**)

## バナナ

つぶしたバナナに薬を混ぜます。バナナ自体の香りが強いので、口に入れた瞬間は薬の味を感じにくいですが、ただ、味わって食べると薬の苦味が出てくるので、すぐに飲み物を飲ませて流し込みましょう。



## チョコレート

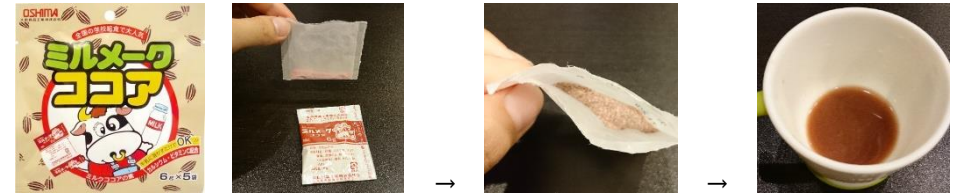
チョコレートシロップや、板チョコを電子レンジで溶かしたものに薬を混ぜます。味や匂いが強い薬でも、チョコの味と香りでカバーされます。



## ミルク

牛乳に味をつけるための「ミルク(スーパー等にて100円くらいで売られており、ココア、イチゴ、バナナ等の味があります)」を使って、薬の味を変えてしまう方法もあります。粉薬にミルクを半量~同量程度混ぜ、それを水に溶かしたり、練ったりして飲ませます(混ぜる量は調節して下さい)。

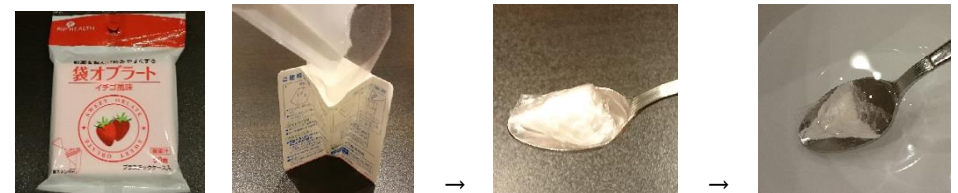
ミルクにはカルシウムが含まれているため、薬の種類によっては効き目が弱くなる場合があります。カルシウムと一緒に摂っても大丈夫な薬か、薬剤師に相談して下さい。



## <3歳~>

成長につれて粉薬の量も増えると、食べ物に混ぜるのも難しくなってきます。オブラートを使って飲めるようになると、漢方薬等の苦い薬にも応用できるので、お子さんの成長に合わせて練習してみましょう。最近はイチゴ味やぶどう味のオブラートもあるので、お子さんにはそういうものの方がおすすめです。

オブラートに薬を入れ、できるだけ小さく包みます。それをスプーンの上に置き、水にくぐらせます。(水につけずに飲むと、口内に張り付くので、必ず水につけて下さい。) 水に入れるとすぐにオブラートがゼリー状になり、薬が包み込まれます。それをそのまま口に入れ、水で流し込みます。



粉のまま飲む練習や、粉薬から錠剤へステップアップしていく方法についてはまた次号で紹介したいと思います。